

25th Anniversary Report



東京芸術劇場開館25周年記念コンサート
「ジョワ・ド・ヴィーヴル ー生きる喜び」第1部・祈り

開館25周年／芸術フェスティバル



東京芸術劇場開館25周年記念コンサート
「ジョワ・ド・ヴィーヴル ー生きる喜び」第2部・希望と愛 カーテンコール

ここから未来へ 東京芸術劇場開館25周年記念コンサート ジョワ・ド・ヴィーヴル ー生きる喜び 2015.11.1sun

11月1日(日)、東京芸術劇場の25周年を記念して、これまでにないユニークなコンサートを開催しました。

はじめはマティスの一枚の絵「ジョワ・ド・ヴィーヴル(生きる喜び)」でした。喜びと生命のエネルギーにあふれたこの絵画を、今回アーティストック・ディレクターをお願いした30代の指揮者・鍵盤奏者の鈴木優人さんにお見せし、そこから自由に発想していただきました。何度も鈴木さんと話し合いを重ね、最終的に「祈り」「希望」「愛」の3部構成、のべ3時間半の作品に仕上がりました。

第1部「祈り」では、ルネサンスから現代までの700年に及ぶ年月から祈りの音楽14曲をピックアップし、合唱とダンスとパイプオルガン(芸劇ならではの3種類のパイプオルガンをフル稼働)、ポジティブオルガン、そして場面ごとに繊細に変化する照明によって表現しました。曲ごとに拍手が入るのではなく、連続したひとつの舞台作品として、クラシックコンサートのイメージとはかけ離れた、最先端の舞台芸術のような斬新さにあふれたコンサートとなり、心揺さぶられ洗い浄められる濃密な時空にお客様を引き込みました。

第2部前半の「希望」では、芸劇がこの1年間ワークショップやレッスンを繰

り返し養成してきた若者たちによる芸劇ウインド・オーケストラが登場。新時代の作曲家 小出稚子さんのみずみずしい小品「玉虫ノスタルジア」とストラヴィンスキーの「火の鳥」で、「思春期サウンド」が炸裂。

第2部後半の「愛」では、東京交響楽団が20世紀を代表する作曲家メシアンの愛を謳いあげた壮大な作品「トゥーランガリーラ交響曲」を熱演。大団円を迎えました。

東京芸術劇場が人々に生きる喜びやエネルギーをあたえる場でありたい、そんな願いを私たちはこのコンサートにこめました。それは同時に、クラシックのコンサートが今後どのような可能性を持ち得るのかを試みるチャレンジでもあったわけですが、ここから大きな手応えを感じることができました。

東京芸術劇場はまだまだ25歳、青春まっただ中です。これからも未来に向けて、さまざまなチャレンジを続けていきたいと考えています。どうぞご期待ください!

文：鈴木順子(東京芸術劇場コンサートホール・ジェネラルマネージャー)
Photo: Hikaru.☆

公演直後に、アーティストック・ディレクターを務めた鈴木優人氏にお話をうかがいました。



©Marco Borggreve

まさに生きる喜びを実感しました。ホールそのもの、お客様、スタッフ、大勢の皆さまからの温かい励ましを感じながらステージに立つことができました。このようにみんなで一丸となって成し遂げられたというところが、一番うれしいところです。内容としては非常に実験的かつ、挑戦的なプログラムでしたので、この公演が「新しいことにどどんとトライしていく」「自らメッセージを発信していく」という、今後の芸劇の劇場としてのスタンスを示す布石にもなったのではないかと思います。いろいろの意味で、奇跡的な一日でした。



開館25周年レセプションにて、萩田伍館長の挨拶

第1部「祈り」 指揮: ポジティブ・オルガン: 鈴木優人 オルガン: 石丸由佳* ダンス: 小尻健太 合唱: パッサ・コレギウム・ジャパン**

鈴木優人 / 《アポカリプシス II》(抜粋)▲▲

N.de. グリーノ / 讃歌《来たれ、創り主なる聖霊よ(ヴェニ・クレートル)》より

〈テノール声部の定旋律による5声のブラン・ジュ〉▲

G.de. マショー / モテトゥス《よき羊飼ひ》▲▲

G.S. リゲティ / 《オルガンのための二つの習作》より「クレ」▲

A. ペルト / 《主よ平和を与えたまえ》▲▲

J.S. パッサ / モテット《私はあなたを離しません》BWV Anh.159▲▲

J. アラン / 《連禱》▲

W.A. モーツァルト / 《アヴェ・ヴェルム・コルプス》KV618▲▲

J.P. スウェーリク / 《涙のパヴァーナ》SwWV328▲

D. ラング / 《愛は強いから》▲▲

J.S. パッサ / 《我ら苦難の極みにあるときも》BWV641▲

第2部「希望と愛」 指揮: 鈴木優人 ピアノ: 児玉桃* オンド・マルトノ: 原田 節* 吹奏楽: 芸劇ウインド・オーケストラ** 管弦楽: 東京交響楽団*

小出稚子 / ウインド・アンサンブルのための《玉虫ノスタルジア》(バリトンサクソフォン版 世界初演)** I. ストラヴィンスキー (R. アールズ編曲) / 組曲《火の鳥》吹奏楽版全曲(1919年版)**

O. メシアン / 《トゥーランガリーラ交響曲》全曲*

I N F O R M A T I O N

鑑賞サポート

目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス(無料・要事前申込)等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

1~3月
対象公演

NODA・MAP 第20回公演「逆鱗」

「ランチタイム・パイプオルガンコンサートVol.115」(1月14日)

「ナイトタイム・パイプオルガンコンサートVol.113」(2月25日)

「ランチタイム・パイプオルガンコンサートVol.116」(3月10日)